

伊方町 地域博物館 基本構想

令和元年（2019）6月21日

伊方町地域博物館基本構想

1. 基本構想策定の背景

伊方町の地域資源とそれを取りまく現状
伊方町の博物館一町見郷土館の課題
新たな博物館の必要性

2. 基本的な考え方

基本理念
博物館の使命
博物館の方向性

3. 機能と活動

収集・保存
調査・研究
展示・企画
学習支援・交流

4. 施設設備と立地

望ましい施設設備
望ましい立地

5. 運営と組織

望ましい運営方針
望ましい組織

1. 基本構想策定の背景

(1) 伊方町の地域資源とそれをとりまく現状

伊方町は四国の北西部、「日本一細長い半島」とされる佐田岬半島に位置します。この半島は、古来より瀬戸内海と豊後水道を仕切り、四国と九州をつなぐ位置にあり、地勢や植生、また歴史文化の点からも、独自の地域的特色が育まれてきました。しかし、生活様式や交通環境の変化等に伴う就労人口を中心とした人口減少。各集落の高齢化・過疎化などを遠因として、この地域独自に生まれ、人々のアイデンティティの源泉ともなってきた歴史文化・伝承・自然景観といった資源が少しずつ変容・衰退し、将来的な消滅も危惧されつつあります。

(2) 伊方町の博物館一町見郷土館の課題

伊方町町見郷土館は、平成 11 年 6 月に旧町見中学校校舎を改修して開館した博物館で、平成 16 年には町立館として県内初の登録博物館となりました（登録第 15 号）。しかし「町見」の館名は瀬戸・三崎地域には馴染みがなく、また幹線道路から離れた位置にあるため、観光客はもちろん、町民とりわけ子供や高齢者等の交通弱者にも縁遠い存在でした。収蔵資料は民俗資料が多くを占めますが、他にも古文書・考古資料・美術作品など多岐にわたっており、繊細脆弱な素材も含む多様な資料を抱えていますが、窓の多い学校建築は外光や湿度・埃などが入りやすく、資料保存や展示の面からも難があります。

また町見郷土館以外に、町民の善意の寄贈で収集された資料群の保管場所が町内数ヶ所に分散しており、その保存状況の改善と有効的な利活用も課題となっています。

(3) 新たな博物館の必要性

町見郷土館の建物は、昭和 56 年竣工、平成 11 年改修です。平成 24 年度の耐震診断で耐震基準を満たしていないことが明らかとなり、翌年補強工事設計、次年着工を目指すも見合われています。その後、耐震強度不足のままでは不特定多数の人々の利用に供する公共施設として不相応と考え、25 年度から企画展は自粛したまま今日に至っています。

なお「伊方町公共施設等総合管理計画（行動計画）」（平成 27～36 年度）では、必要性が認められる施設は、更新等の機会に社会経済情勢の変化に応じた質的向上とともに、複合化・集約化を図ると謳っています。資料保管場所が複数分散する博物館施設も、その方針に沿った計画的な管理に基づく、大切に長く使える博物館のあり方が問われています。

このように、施設設備的な面から考えても、町の社会教育施設の一面を担う公立博物館を将来的に継続するなら、「新たな博物館」のすがたを検討すべき時期に来ているのです。

2. 基本的な考え方

(1) 基本理念

伊方町の位置する「佐田岬半島」をメインテーマに据え、博物館活動をベースとした、生涯学習・交流拠点を目指します。

(2) 博物館の使命

- ・ 佐田岬半島で代々暮らしてきた先人たちの生き様を記録し後世に残し伝えます。
- ・ 佐田岬半島ではたらく人々に、地域の活力につながるきっかけを提供します。
- ・ 佐田岬半島で生まれた若者たちのふるさとへの誇りと愛着を醸成します。
- ・ 佐田岬半島を訪れた人に、地域の特性と魅力を伝えることでおもてなしいたします。

(3) 博物館の方向性

- ・ 障がい者、外国人、LGBT 等も含め、すべての人にひらかれた、利用しやすいユニバーサルな施設を目指します。
- ・ 市民参画・大学研究機関等、多方面への積極的な交流を通じて、佐田岬半島地域の新たな価値の創造に努めます。
- ・ 佐田岬半島の自然環境と文化的景観に配慮した外観形成と施設管理に努めます。
- ・ 災害時には防災拠点として町民の生命財産保護にも援用し得る施設機能を備えます。
- ・ 適正な事業規模の範疇で、官民の知恵を出し合って効率的な博物館運営に努めます。

3. 機能と活動

(1) 収集・保存

- ・地域のアーカイブ形成を自覚し「佐田岬半島」に関わる多様な資料の収集に努めます
- ・民俗資料・生活道具類等の安定した保管状態の確保に努め、未来へ継承します。
- ・非現用文書の保管場所としての役割を担い、公文書館としての機能を担います。
- ・繊細な美術作品の保管・展示や、他館との相互作品借用・展示も想定して、温湿度管理の整った収蔵・展示区画の確保に努めます。

(2) 調査・研究

- ・「佐田岬半島」の歴史・文化・自然等に関する、継続的な調査に努めます。
- ・「佐田岬半島」に関わる学術的な基礎・応用研究を保障し、新たな価値を創出します

(3) 展示・企画

- ・「佐田岬半島」の自然・歴史・人々の暮らし等が一覧できる常設展示を設けます
- ・「佐田岬半島」に関わる様々なテーマで定期的に変動する企画展を提供します。
- ・「佐田岬半島」出身・ゆかりの人物データベースを提示・顕彰するスペースを設けます

(4) 学習支援・交流

- ・「佐田岬半島」の特性を学ぼうとする内発的な学校教育・生涯学習を支援します。
- ・「佐田岬半島」で生きた先人の話に耳を傾け、生きがい形成・福祉向上に貢献します。
- ・「佐田岬半島」の特性を活かした、まちづくり・企業活動・雇用創出を支援します。

4. 施設設備と立地

(1) 望ましい施設設備

博物館としての基本的な四つの機能（①収集保存 ②調査研究 ③展示企画 ④学習支援交流）を担保し、利用者の目線に立った使いやすい快適な施設設備を目指します。

(2) 望ましい立地

伊方町内すべての地域の幅広い世代の町民が比較的アクセスしやすい点を重視し、公共交通機関の有無や、自動車・バス等の進入・転回・駐車スペースを考慮できる立地を検討します。

5. 運営と組織

(1) 望ましい運営方針

中枢となる博物館の学芸機能は公平性公共性の観点から公営直営としつつも、それ以外の機能分野に関しては、長期的な施設維持、採算性、周辺地域の活気形成等の観点から、民間企業等の経営感覚やノウハウに学び、官民による協働形態を柔軟に検討することは、妨げないものとする。

(2) 望ましい組織

教育委員会の一組織として、生涯学習施設である博物館の施設運営はもとより、将来的には文化財分野の教育行政もあわせて担う組織体となることが望ましいと考えます。